

70年目の夏に 伝え続けたいこと

7月13日の37.7℃という酒田市の気温は、7月としての最高気温とのことでした。当日は午後9時まで30度以上の気温だったようです。

さて、明日から夏休みに入ります。子ども達はとても楽しみにしているようです。しかし、教職員にとっては、「大きな事件や事故もなく、2学期終業式で全員の元気な顔が見られること」を願いながら子ども達としばしの別れを惜しむ日でもあります。

今年の夏は戦後70年の節目にも当たります。様々な特集をテレビや新聞などで目にすると思います。おりしも、我が国の安全保障についても様々議論されている所です。

さて、この時期は、どの学年でも、国語の学習で戦争を題材とした物語の学習をします。今から30年位前の教師になりたての頃は、こうした戦争に関する学習をする際に、「おじいさんおばあさんから戦争の時のことをたくさん聞くこと」を子ども達に話しました。平和の大切さ、いのちの尊さを祖父母の実体験を通して、継承していくことも大事な学習でした。

私が生まれたのは戦後10年目の年です。小学生の頃は、近所の大人が我が家に来た時の世間話で、よく話題になったのは、戦争の時の体験話でした。国立倉庫近くの線路で、アメリカの飛行機からの銃撃を受け、貨車の下に急いで潜って、生き延びたという話が、今でも心に残っています。また、近所の神社に至る階段脇の斜面の茂みには、コンクリート製の防空壕があって、秘密基地に見立てて何度か入って遊んでいました。他にも機銃掃射の弾痕が残る建物など、戦争の面影をまだまだ感じることができた時代でした。「あと1年早く生まれていたら、お父さんは戦争に行ってた。子どもが生まれることもなかったかもしれない。」が、父の口癖でした。私たちは「親から戦争を聞いた」世代です。

大学を卒業して先生になりたての頃は、「おじいさんおばあさんから戦争のことを聞いてみましょう」と子ども達に話していました。今は、「戦争を知っている、ひいおじいさんやひいおばあさんがいたら、聞いてみましょう」と話す時代です。昭和20年以前に生まれた方は、70歳以上となっています。今の子ども達は、過去や他国の争いごとを映像や記録で知る時代です。戦後生まれの人たちにとってごく自然に口にしていた「昭和」は、「時代」という単語が加わって、教科書では「昭和時代」と言う、大正や明治と同じ「ひと昔」の「時代」に位置づけられてきています。

15年ほど前に、職務で沖縄に行った事がありました。「ガマ」と呼ばれる洞窟やひめゆり平和祈念資料館、平和の礎(いしじ)などを巡りましたが、中でも



心に残ったのが、摩文仁の丘でのガイドさんの説明でした。兵隊のために海の水を汲みに崖を往復する少年達が、アメリカ軍の艦砲射撃を受けて次々に命を落とし、海が子ども達の血の色で赤く染まったこと・・目の前に広がる沖縄の海の青さが赤く染まっていく様子を想像したとき、心と気づいたのは、これまで自分が見てきた日本側の戦争の記録映像は、ほとんどが白黒映像だったということです。飛行機も戦艦はもちろん、目の前に広がる、南国特有の空や海の青い色もみんな白黒映像でした。ガイドさんの話を聞いた瞬間、頭に焼きついた白黒映像の海が真っ赤に着色され、頭に広がっていったのでした。鮮明な赤い海でした。「戦争」の酷さ、若くして絶たれた命の無念さが心に迫り胸が熱くなってきました。

戦後70年の節目、親として家族として、今世界で起きている様々な、生きることへの試練、それは大人だけでなく、子どもにとっても課せられている現状を自らできる範囲で子ども達に伝えていただけたら幸いです。「いのち」をつないでいくためにも、自らの生き方を考えるためにも大切なことだと思えます。

話はさかのぼりますが、4月下旬に「子どもの命を守る安全教育推進会議」に出席しました。その中で、鶴岡高専の澤祥（ひろし）教授の「庄内の地震環境と津波」という講演を拝聴させていただきました。その中で、「新潟地震を思い出し(知り)、その恐ろしさをみんなに伝えましょう」というお話があり、澤教授は「新潟地震の様子を生々しく語れるのは、これから10年くらいの間である」とお話をされました。去年は新潟地震発生から50年の節目の年でもありました。当時私は9歳で、小学校3年生でした。当時の5歳の子どもは55歳になっています。私の記憶として残っているのは、テレビで見た新潟市の様子です。信濃川にかかる橋の崩落、外に避難している方々と、後方にみえる、爆発した石油タンクからモクモク湧き上がる黒煙の様子。そしてニュースで知った中学生の死亡事故。当日、私の家の前を男子中学生が「地割れを飛び越えながら逃げた」と話しながら通り過ぎていった光景は今も鮮明に残っています。また、普及し始めた電気釜を使っている近所のお母さんが「停電でご飯が炊けない」と言っていたこと、始めて見た自衛隊の給水車、井戸水を近所に分けてくれた醤油・味噌工場の経営者等々。澤教授は、

「当時は新潟が映像でクローズアップされていた。酒田は震度5とされていたが、実際は震度6くらいあり、新潟よりも揺れが大きかったと推定される。むしろ庄内・新潟地震ともいえるだろう」とも述べられました。そして、学校で当時の実体験を伝えられる教員はここ数年で退職してしまうことへの危機感を改めて示されたのでした。写真は中平田学区内にある慰霊碑です。表面がやや風化し、苔があるため、文字が見えにくい状態です。これは、明治27年に発生した庄内地震で犠牲になった中平田小学校の児童と教師、計5名の慰霊碑です。自分なりにネットで調べてみると、当時の市内の被災状況を示す調査や写真も残されていました。また、東平田村誌には、学区内の様子も記されていました。庄内地震は昨年120年の節目だったそうです。

また、教務の先生からは、北平田学区の新青渡の歌舞伎についてお話を聞きました。酒田市合併村誌には昭和37年の上演が最後と記されていますが、その衣装を毎年地域の方が陰干しされているとのことでした。今年から本校の教員が夏季休業中の地域研修を行うことにし、初回は、この歌舞伎のことについて、道具を見せていただいたり、お話を伺ったりする予定です。その他にも地域



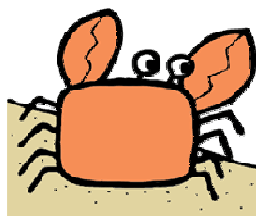
震災慰霊碑

明治二十七年一月十四日、庄内に大地震が起きました。
当時この地には、中平田小学校の児童と教師、計5名の犠牲者が出ました。この地には、この地震で犠牲になった中平田小学校の児童と教師、計5名の慰霊碑が建てられました。明治二十七年一月十四日、庄内に大地震が起きました。この地には、この地震で犠牲になった中平田小学校の児童と教師、計5名の慰霊碑が建てられました。

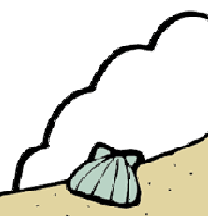
中平田小学校は、庄内地震で犠牲になった児童と教師、計5名の慰霊碑が建てられました。明治二十七年一月十四日、庄内に大地震が起きました。この地には、この地震で犠牲になった中平田小学校の児童と教師、計5名の慰霊碑が建てられました。

平成七年二月 酒田市の教育委員会

には、様々な夏やお盆の習わし・行事があります。近年、後継者不足や人口減で各集落の祭礼や行事ができない状態の所も複数あると聞いております。今残されている祭礼や行事も若い方々や子ども達に何とか伝わっていったらと思います。それぞれの文化の継承の担い手としての子どもの存在を十分に理解していただき、積極的に参加させ、子ども達の記憶の中にしっかりと植えつけていくことも、大人の大切な役目だと思います。家族旅行や習い事、スポ少など様々な計画があるかと思いますが、ぜひとも「地域の一員」としての子どもと親の役割を十分にご理解いただき、地域での関わりあいの生活に浸るという当たり前のことをしっかりと体験させていただければ幸いです。



地区懇談会から



7月14日に各地区コミセンで地区懇談会が実施されました。その中で話題になったことについて簡単に記載させていただきます。

1 スクールバスの乗降場所について

- ・統合前から各地区で検討していただいた上で決定した場所です。道路の方向と家の位置によって登校時と下校時では乗降場所が反対になります。通学路の変更手続きも必要になります。そのことも前提としながら、地域で十分に話し合いを深めていただき、総意として要望をお寄せいただければ幸いです。その後市教委やバス会社等関係機関と検討していくこととなります。

2 危険箇所等について

- ・太陽光パネルが設置されている地区や、電流の流れる柵を設置した水田もあります。触れる事のないように、子ども達へのご指導もお願いします。

3 夏季休業中の学校との行き来について

- ・プール開放時は原則として普段の登校と同じ方法です。但し、徒歩通学地区においては、4年以上は自転車の利用も可能と確認した所です。(PTA 運営委員会) また、いずれの手段も寄り道しないでまっすぐに家に帰ることとなりました。(7月16日付「夏季休業中のプール開放について」を確認願います)

4 帰宅後の遊びについて

- ・大人が誰もいない家には遊びに行かないこととしています。子どもだけのたまり場とならないようにするためです。また、昼食時は一旦家に帰ることとし、午前中から午後までずっと居続けない事も大事なルールとして考えております(昼食時も含めて、一日中いることで、困っている家庭もあることをご理解願います)。お盆期間には、よその家に遊びに行くことを控えることも大切な気遣いかと思われます。
- ・高学年は他の旧小学校区に遊びに行ってもよいこととなっていますが「保護者に行き先を告げて了解を得ること」が前提である事は、統合前の三地区 PTA で確認されていることです。徹底をお願いします。(「どこに行ったかわからない」にならないように)

なお、当日お忙しいにもかかわらず、出席していただいたコミ振会長、自治会長、民生委員はじめ地域の皆様に深く感謝申し上げます。見守り活動もありがとうございます。

